

## [12] 自動車部品工業

12/11 13/12

: 天気図マーク ;



◎ 伸び率10%以上

● 伸び率0~▲10%

○ 伸び率0~10%

● 伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向

#### (1) 需要

平成12年度の自動車の国内販売は2年連続の増加となり、また輸出についても、好調な北米向けに加え、回復傾向にあるアジア地域向けも増加となるなど、3年ぶりの増加となった。このような状況の中、国内の自動車メーカー向け組み付け部品が全体の需要先の7割弱を占める自動車部品工業における平成12年度の国内出荷についても、前年度並みの13兆円規模になるものと予想される。

しかしながら、これまで需要を牽引してきた北米経済に減速が見られ、また国内自動車メーカーは海外生産の拡大、コスト低減活動などの一層の経営の効率化を進めているところであり、自動車の国内生産台数についても今後急激な上昇は見込めない。一方で、国内自動車部品産業のグローバル化も一層進み、欧米の巨大部品メーカーが日本に生産拠点を設ける等日本市場への参入機会がさらに増加するものと考えられる。このような状況の下、自動車部品工業においても今後の国内生産の大幅な増加は期待できず、自動車部品メーカーは一層の合理化と技術力の強化に取り組んでいく必要に迫られている。

#### (2) 生産・設備稼働

##### ① 生産

経済産業省「機械統計調査」によると、国内の自動車部品生産は、国内自動車生産の増加と部品輸出の増加を受け、前年度比3.6%増の6兆421億円と、2年連続の増加となった。

##### ② 在庫

在庫については、種類によっては若干の違いはあるものの、自動車メーカーとの連携により必要最低限の在庫水準で推移している。

##### ③ 生産能力・設備稼働率

国内自動車メーカーによる海外生産の増加や海外現地調達増大等、グローバル化の進展に伴う世界規模の競争激化により、自動車部品メーカーは生産設備の合理化等生産体制の再構築を進めており、最近の自動車生産の回復や部品輸出の増加と相まって、設備稼働率は徐々に改善しつつあると考えられる。

#### (3) 企業収益

上場自動車部品メーカー71社の平成12年度決算は、売上高が対前年度比6.6%増、経常利益は32.5%増となった。

この売上高の増加は、国内自動車生産が増加したことと、米国市場の好調やアジア市場の回復による部品輸出の増加や現地子会社の事業拡大等が寄与したことによるものである。また、経常利益の増加は、売上高の増加とともに、部品各社が懸命な原価低減活動を客先からの大幅な原価低減要請にこたえて行ったことに加え、円安による為替差益の発生等で営業外収支が改善したことによるものである。

#### (4) 財務

上場部品メーカー各社の動向を見ると、新会計基準の導入に伴って、退職給付債務の処理を積極的に行うなど、財務体質の改善に取り組んでいる。

## 2. 設備投資動向

### (1) これまでの設備投資の推移

自動車部品工業の平成12年度の設備投資実績見込額は、3,179億円で前年度に比べ7.1%の減少となった(11年度ー12年度共通企業ベース57社)。これは、自動車業界におけるグローバル化の進展などを背景として、今後国内生産の大幅な増加が見込めない中、総じて各社とも投資額の抑制を図ったためと思われる。投資目的別では、モデルチェンジ対応のための投資が依然として高い。生産能力増強・新設に係るものについては減少傾向で推移し、更新・維持・補修投資が増加している。

### (2) 平成13年度の設備投資計画

平成13年度の設備投資計画は、3,546億円で前年度に比べ15.6%の増加となった(12年度ー13年度共通企業ベース53社)。投資目的別では環境・安全対応の研究開発投資やコストダウン強化のための合理化・省力化投資が増加している。

## 3. 長期資金調達・運用動向

平成12年度の長期資金需要は、大部分が設備投資に割り当てられている状況であり、平成13年度についても同様である。

平成12年度の長期資金調達は、平成11年度に引き続き社債と借入金による調達を絞り込んでおり、内部資金の活用を進める傾向にある。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

